

2012年2月17日、オンラインニュース、「レヴェヌマンプレシ」にトップニュースとして掲載された記事

駐日ベナン特命全権大使任命後、ルフィン・ゾマホン氏は報酬の大部分を慈善事業に寄付することを表明

*この度、駐日ベナン特命全権大使に任命されたルフィン・ゾマホン氏の写真

2011年12月29日の閣議で駐日ベナン特命全権大使に任命されたルフィン・ドスー・シール・ゾマホン氏は、大使として受け取る報酬の大部分（75%）をベナンの貧困層に向けた福祉事業推進のために使ってほしいと再度申し出た。

ゾマホン氏は、今までも大統領特別顧問職に対して長年に亘り支給されていた報酬の全額をイフェ財団に捧げている。その寄付金はベナンの貧困層のための学校建設、保健衛生施設の整備、井戸の掘削等に充てられてきた。ゾマホン氏はこの度の新任務においてもベナン一市民としての貢献を引き続き継続していくことを決意した。

ダッサズーメ出身のゾマホン氏は、ベナン一の日本通と言われ、彼の祖国への貢献は国内でも称賛の的となっている。今回の申し出も、常々ベナン全国民の幸福を願って止まないゾマホン氏の強い愛国心を表している。大使任命を受け、ゾマホン氏は、ベナン国家元首ボニ・ヤイ閣下に対し感謝の意を伝えると同時に、その信頼に報いるために、様々なイニシアティブを通して、ベナンと世界第三位の経済大国日本との二国間協力強化に尽力していく決意を固めた。

新任の駐日ベナン大使は、これまでも日本政府のベナン人留学生受け入れや奨学金交渉に奔走し、また日本で学ぶベナン人留学生の渡航費を負担する等、両国間を何度となく行き来してきた。こうしたゾマホン氏の日本社会との深い繋がりが、ベナンに関心を示す日本人投資家を増やしたい、と願うベナン国家元首の兼ねての望みを、今後、具体化していく切り札となる。

従って、彼が持つ多岐に渡る日本での交流関係を駆使しつつ、ゾマホン氏は、実用主義を旗印にベナン外交の先頭を切ることになる訳だが、その実用主義とは、ベナンにノウ・ハウをもたらし、ベナン経済を飛躍させるために大勢の日本人投資家をベナンに誘致することを意味するものだ。

ゾマホン氏は、ベナン国民の幸福のため、とりわけ経済面において、ベナンと日本両国間の関係復活に永続的に深く関わっていく覚悟を決めている。